

新しい年を迎えて

小坂町長 細越 満



令和7年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、元日に発生した能登半島地震から始まり、一年中自然災害の絶えない年であったように思います。県内でも、一昨年に続いて大雨による被害が大きな爪痕を残しました。幸い小坂町は、大きな被害に見舞われることなく過ごすことができましたが、災害はいつでも起こるかわからない、特に近年は温暖化の影響なのでしようか、「経験したことはない」と言われる災害が頻発しております。ことわざにある「備えあれば憂い無し」とおり、日頃からの備えが重要でありますので、町においても自然災害への備えは喫緊の課題と捉え対策を講

じてまいります。

クマは、昨年も出没が相次ぎました。5月に鹿角市で発生した、クマによる人身事故を起因とする樹海ライン沿い一帯の入山規制により、十和田湖山開きの山歩きの中止や、タケノコ等の山菜採りなどに大きな影響が出ました。

幸いにも小坂町では、人身被害の報告はありませんでしたが、被害に遭わないためには一人ひとりの注意が最も重要であります。町では、誘引木伐採への補助のほか、鹿角警察署や猟友会と情報連携し状況確認するとともに、看板設置やメール配信、県のツキノワグマ等情報マップシステム・クマダスの活用により、目撃情報の周知などの注意喚起を図り、クマ被害発生防止に引き続き努めてまいります。

このような中、明るい話題もたくさんありました。3月には、「こさかまちかつらーめん」が、文化庁が推進する「100年フード」に認定されました。これは、日本の多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文

化を、継承していくことを目指す取り組みを推進していくもので

す。町の伝統行事である小坂七夕祭に由来する町のソウルフードとして、継承されていることは地域の誇りであり、この認定を契機として、全国に向けた情報発信を行い、地域活性化に活かしていきたいと思っております。

5月には、あけぼの号がコロナ禍の影響等により令和2年度から休止していた宿泊営業を、5年ぶりに再開いたしました。全国唯一の動態保存されているブルートレインで、鉄道ファンなどから一日も早い営業再開を期待する声が寄せられていたこともあり、県内外から多数のお客様にお越しいただきました。

10月には、町内外の皆さまから多くの期待を寄せていただいた「道の駅十和田湖」がオープンいたしました。道の駅十和田湖は、秋田、青森両県の県境にあり、小坂町内に立ち並ぶ近代化産業遺産や、鹿角地域などに点在する縄文遺跡群へ向かう玄関口として、さらには秋田県から青森県の奥入瀬溪流方面へ向かうドライブ

の中継地点として、大いに期待されているところで

す。本施設が、十和田湖の新たな観光拠点として、皆さまに愛され親しまれる道の駅となりますよう、今後も交通便利性の向上や観光資源の更なる磨き上げを図ってまいります。

第6次小坂町総合計画は、前期基本計画の終了まで残り一年余りとなり、令和8年度から始まる後期基本計画の策定に向けて準備を進めているところです。町の将来像「人と自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち」を目標として、引き続き後期5か年で小坂町の将来を見据えた事業をしっかりと推進できるよう、後期計画策定に取り組んでまいります。

総合計画が目ざす町の将来像の実現に向けては、若者世代をターゲットとして、これまで住環境整備や、福祉・教育等の各種施策による子育てしやすい環境整備を継続して進めてまいりました。これからも、住む人が愛着を持ち、訪れる人が感動するまちづくりに積極的に取り組んでまいります。

結びにあたり、町民の皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。